

## 令和5年度都立看護専門学校推薦入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

私は学生時代、自転車通学していた。自転車でお年寄りの近くを通りすぎる時、決してぶつからないようにちゃんと距離をとっているのに、それでもお年寄りがびくりとしたり、顔をしかめたりする。そのことを少し不快に思っていた。「ちゃんとよけているのに、なんでだよ」と。

ところが、自分がお腹の手術をして、ようやくその理由がわかった。開腹手術後はよく歩いたほうがいいので(そのほうが腸閉塞を起こしにくいと言われた)、積極的に散歩に出ていた。だが、なにしろお腹の傷がまだ完全には癒えていないので、素早く動けないし、自転車にぶつかられたりしたら大変なことになる。

そういうときには、自転車でそばを通りすぎられると、とても怖い。こちらはまだ若いし、服を着ていれば、手術したてのほやほやなんてわからないから、相手の側も何の配慮もしてくれない。

そのときに感じたのは、ぶつからないようによけてくれる程度では、ぜんぜん足りないということだ。もしその自転車が突然倒れたとしても大丈夫くらい、距離をとってほしいのだ。もし自転車が倒れたとき、自分はさっとよけられないし、ぶつかると、痛いくらいではすまないからだ。それは、かなりの距離である。

お年寄りもきっと同じなのだと思う。素早くは動けなくなっているし、ぶつかられて転けると骨折しかねない。骨折すれば、それをきっかけに寝たきりになりかねない。だから、元気な人間が「ちゃんとよけた」と思うくらいのレベルでは、怖くてびくりとしたり、顔をしかめてしまうのだろう。

そうわかってからは、お年寄りのそばを自転車で通りすぎる時は、自分が求めているくらいの距離をとるようになった。そうすると、嫌な顔をするお年寄りは、やはりひとりもない。

出典：頭木弘樹著（2020）「食べることと出すこと」  
株式会社医学書院

（設問）

著者が伝えたいことを200字程度に要約した上で、「相手の気持ちになること」について、体験を踏まえたあなたの考えを、要約を含めて800字程度で述べなさい。